

インフォメーション No. 5

愛する兄弟姉妹の皆さん、

5月8日(土)18時10分(イタリア現地時間)、シルヴィオ・サッシ神父は総長に再選されました。今後6年間、聖パウロ修道会を導くこととなります。新総長に選ばれたばかりのサッシ神父が最初に発した言葉の要約をここに記します。「愛する兄弟たち、世界に広がる聖パウロ修道会の共同体を代表する皆さんすべてをとおして、皆さんがわたしに対して示してくれた信頼に感謝の意を表したいと思います。わたしは、この務めを受けることによって、何がわたしを待ち受けているか、よくわきまえているつもりです。しかし、神の助けとパウロ会員すべての協力によって、単に修道会が立ち行くだけでなく、力強く歩んでいけるようにしていくことが、わたしたちにはできると信じています。パウロ会員は遊牧的なカリスマ、旅する者としてのカリスマを持っています。もしその歩みの一時でも、また一面においてでも腰を下ろしたり、立ち止まったり、ノスタルジーを感じたりするとすれば、災いなことなのです。愛する兄弟たち、ここ数日の間、何度もわたしの頭に浮かんだ言葉の一つは、プリモ・マエストロがああ聖体から光を受けた夜半に述べた言葉、「今日の人々のために何かをおこなう」というものでした。わたしたちの総会は、この宣教精神を継続したいと望んでいます。この宣教的視野からこそ、わたしたちは使徒職プロジェクトを練っていく勇気を得なければなりません。会憲が述べているように、総長は修道会全体の父親であり、牧者です。そのようにありたいとわたしは思います。そのようにともにたたえ合って行きたいといます。最も素晴らしいこと、それは歩み続ける修道会であることに、未来に向かって行く修道会であることに誇りを持つことだと思います。このことをこそ、わたしは特に、わたしたちの言葉に耳をそばだてている若いパウロ会員たち、若い司祭たち、修道士たち、そして高齢の人々、病気の人々に述べたいのです。修道会はすべてを、またすべての人を必要としています。修道会は、健康な人、教養のある人、元気な人の特典ではなく、神秘体なのです。だからこそ、わたしたちはパウロ会員であることを誇りとしているのです。ありがとう」。

それでも、総会としての作業は選挙の間、途絶えることはありませんでした。総長選挙に先立つ日々、そして7日(金)と8日(土)に、わたしたちは今後の6年間の修道会の指針のため、全体目標と優先課題を明らかにすることにも力を注ぎました。全体会議でパウロ家族について意見を分かち合うための時間も取られました。5月6日(木)の午後は、総長およびその顧問会の選挙に向けた識別と祈りのために用いられました。5月7日(金)は、7時からシルヴィオ・サッシ神父が総会の議長として司式をする荘厳ミサでもって始められました。9時にわたしたちは聖霊を祈り求めるために会議場に集まりました。その後、会憲に定められた誓約をそれぞれが荘厳におこないました。「わたしを裁かれる主イエスのみ前で、わたしは良心にしたがって選ばなければならないと判断する人を選ぶことを認めます」。議長と集開票人も自分の役目を忠実に果たすことを誓いました。

昨日、日曜日は総会の作業を休み、多くの人たちがカゼルタの王宮を訪れました。そして、今日、5月10日(月)は総顧問たちを選ぶための投票が始まりました。

ここ数日の間、わたしたちはパウロ家族の兄弟姉妹の皆さんすべての祈りの力を強く感じました。そして、わたしたちは、今や神のみもとに2人の新たな取り次ぎ手がいることを知っています。5月6日(木)にローマのアレッサンドロ・セヴェーロにある共同体で亡くなったパウロ会員パオリーノ・カンパルモー修道士と、聖家族会員でありメキシコのパウロ会員の偉大な恩人で、5月9日(日)に息を引き取ったグアダルーペ・グティエレス・デ・モンタウリオル夫人です。

引き続き、主のみ前で皆さんが思い起こしてくださることに信頼しています。

2010年5月10日、アリッチャ(ローマ)

インフォメーション担当: アントニオ・リッツォーロ神父